

平成 27 年北栄町議会議員研修報告書

No.11 油本朋也

1.～3.略

4. 調査結果または概要

・有限会社ひよこカンパニー

従業員 100 名、平均年齢 30 歳、年商 10 億円、たまご生産毎日 2000 個以上、売上 90%以上が通販、たまごが採卵翌日に宅配される。

年間 10 万人集客。土産物販売スペースがきれい、清潔感がある。でも狭い。バームクーヘンは噂通り好評。

たまごかけご飯は 580 円払って食べる価値があるか、一回ではわからなかった。

・カタシモワインフード株式会社

大阪河内のブドウ作りの歴史に浸る。460 人のボランティアに支えられ、耕作放棄地などの農地を整備。失われた栄光を取り戻そうとする執念に、熱いものを感じる。

販路獲得の努力に敬意を払う。

高井社長の言葉や、ボトルを扱う動作の一つ一つに重みと切れがあり、キラキラ光る力強い剣のようであった。説得力や迫力という言葉では表現しきれないものを垣間見た気がした。瀬戸際に追い込まれた状況を克服した人の強さを見た気がした。

「地元の活性化は地元で考える」「団体は受けない」「材料買い取り価格毎年 10%アップし、生産農家のレベルアップを図る」などの社の理念に共感。心より応援したいと思う。

でもワイン売り場をもっと広くしてほしい。

・ハートランド株式会社

大胆な水耕栽培に巨額の投資。当面の採算を度外視しても障がい者雇用を維持していく大会社の姿勢に敬意を払う。

・綾部市役所 定住交流部 水源の里振興課

改めて残酷な単語と思う「限界集落」。その集落の持つ力の限界の向こうまで行こうとしている人たちの挑戦である。

9年前東京の出版社を退職し、Uターンした当時はまだ無気力で、こんなことになるとは全く思っていなかった自治会長の渡邊氏（62）は、当時の市長の呼びかけをきっかけに、ある流れを作った。それは現在3軒4人のこの集落の人たちの塞いでいた気持ちを前向きにし、やりがいを見つけ出し、それを喜びに変化させ、やがてみんなの生きがいとなる大きな流れであった。昨年も600人のボランティアと一緒に、この集落の活性化に取り組んだ。

資料で拝見したが、失礼ながらとてもいい笑顔の彼女たち（84歳.88歳.91歳）と渡邊氏である。心から成功をお祈りします。とち餅おかし、美味でした。ごちそうさま。

・香美町役場村岡地域局 教育委員会教育総務課

町独自の方策で町を愛することのできる子どもたちを育てる教育に取り組んでいる。目先のことではなく、何十年か後の町の繁栄が楽しみである。

5. 所感

自分で自分の行く方向を定め、信念に基づいて話している人たちに会った。

彼らは決して借り物ではない、自分の言葉で話している。

彼らの話す姿は美しい。凜としている。熱いがとても清々しい。

彼らの視線は目先の利益ではなく、やりがいや使命感や、そのもっと先を捉えている。

彼らにとって利益は結果であり、目的では決してない。

本当に熱意を持った人の話は、聞いている方も体の内部から熱くなると感じた。

この熱が人を動かす源であり、それがやがて大きな流れとなり新しい力を創造し、新しいコミュニティの形を作っていくのではないか。

変革や創造は、整備された実施要項や、美辞麗句を並べた理念によって具現化されるものではない。それは自分で目標を掲げ、問題意識を持ち、率先してそれに立ち向かうことのできる実力とカリスマ性を持ったリーダーと、その人に無償の努力を約束できる人たちがいて、初めて動き出すことが可能になるのではないか。